

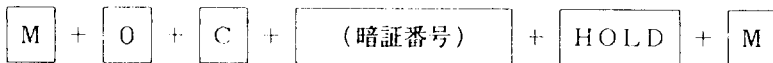
§ はじめてのSFX §

本書は、SFXを初めて使用される方のために書かれています。

- 安心ロックとは。
安心ロックとは、640RSと同様に、暗証番号を知っている人だけが、スペシャルを使用できるようにする機能です。暗証番号が分かりませんと、スペシャル状態にできませんので、忘れないようにしてください。

- 最初にスペシャルモードにします。
MONキーを押して、CHが表示されれば、スペシャル状態にすでに
なっていますので、その場合は、つぎの安心ロックから操作してください。

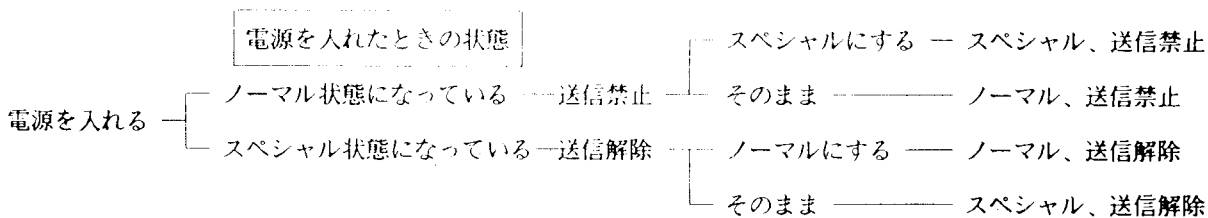
つぎのキー操作を行なってください。



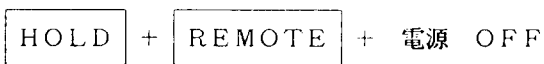
ノーマルのモニター状態から操作しても、CHが変わらずにスペシャルをセットできます。

- ◎ スペシャルにならない場合
Fのランプはついていますか？
○ 消えているなら暗証番号が違います。
○ ついている場合は、無線機内部に異常が発生しています。
購入されました販売店に御相談ください。
- ◎ 電源を切り、再度入れると、ノーマルになってしまう。
電源を切る前に、メモリー0の内容を確認してください。暗証番号と違いますと、電源を切った場合に、ノーマル状態に戻ってしまいます。暗証番号を打ちなおしておきますと、ノーマルに戻りません。

- ATISカートリッジ無し送信
ノーマルから、スペシャルに切り替えた直後は、送信できない状態です。
一旦、電源を、OFF-ONとしてください。以降は送信可能となります。
このように、電源を入れた時点での状態により、送信の禁止、および解除がセットされます。



- 安心ロックをセットします。
スペシャル状態を他人に知られたくない場合、セットしますと、暗証番号が分からないと、スペシャル状態に戻せなくなります。



次回に、電源を入れても、ノーマルからの起動ですので、ROMなし送信はしません。

キー操作のまま、電源を切らずにノーマル状態で使用しますと、ROMなし送信が可能です。一旦電源を切り、もう一度電源を入れますと、ROMが入っていませんと、送信できなくなります。このとき、免許番号は変更されます。(ROMが入っていれば、自局の免許番号となります)

◎ 下記の操作方法を行なうには、スペシャル状態にセットしてから行ないます。
1 ページ目を参照してください。

○ HOLD の操作方法 その1 HOLD+5~8について

HOLD を押しますと、 — 5 6 7 8 のセット、解除、および確認ができます。

↑
このとき、表示の左端のケタは、なにも表示されていません。
この点について注目しておいてください。

○ HOLD の操作方法 その2 HOLD+1~4について

本機は、ひとつひとつのスペシャル設定を、HOLD キーを使用して、セットします。
機能が aumentata ため、HOLD 1~4 は、二段設定となっています。
HOLD 1~4 まで、それぞれに、1~4 のセットを設定しています。

HOLD + 1 → 1 — — — —

↑
HOLD を押しただけでは表示されなかった左のケタに、1~4 の数字が表示されます。
このとき、二回目の キーを受け付けます。また、RESET キーで中止できます。

HOLD + 2 → 2 — — — —

HOLD + 3 → 3 — — — —

HOLD + 4 → 4 — — — —

— } 上記と同様に、1つのキーの中に、
4つの機能がセットされるよう
なっています。

○ 例 キー操作

表示の状態

↓ ↓ ↓	HOLD	→	— — — — —	=	HOLD+5~8は、セット なし
↓ ↓ ↓	1	→	1 — — — —	=	HOLD+1のなかは、セット なし
↓ ↓ ↓	1	→	1 1 — — —	=	HOLD+1+1 が、セットされた
↓ ↓ ↓	3	→	1 1 — 3 —	=	HOLD+1+3 が、セットされた
↓ ↓ ↓	1	→	1 — — 3 —	=	HOLD+1+1 が、解除された
↓ ↓ ↓	RST	→	群番表示に戻る	=	HOLDの作業から抜ける

上記のような操作手順により、HOLD 2段セットを行ないます。

○ スペシャル機能をすべてOFFとする。

SFXを早く使いこなしていただくためには、ひとつひとつの機能を十分理解していただくことと
 思います。そこで、すべての機能をOFFとしてから、操作されると良いでしょう。

HOLD →

— 5 6 7 8

 = 5～8のどれかが表示されている場合、
 そのキーを押して、表示を消します。

キー操作により →

— — — — —

HOLD + 1 →

1 1 2 3 4

 = 左端を除く、1～4の
 どれかが表示されている場合、
 そのキーを押して、表示を消します。

キー操作により →

1 — — — —

HOLD + 2 →

2 1 2 3 4

 = 左端を除く、1～4の
 どれかが表示されている場合、
 そのキーを押して、表示を消します。

キー操作により →

2 — — — —

HOLD + 3 →

3 1 2 3 4

 = 左端を除く、1～4の
 どれかが表示されている場合、
 そのキーを押して、表示を消します。

キー操作により →

3 — — — —

HOLD + 4 →

4 1 2 3 4

 = 左端を除く、1～4の
 どれかが表示されている場合、
 そのキーを押して、表示を消します。

キー操作により →

4 — — — —

以上の操作により、セットできる機能は、すべて解除の状態となりました。

- 操作の途中で、HOLDセットの状態から抜け出たい場合は、RESETキーを
 押すことにより、作業を中止できます。機能は、表示されていた状態のままです。
- 不慣れなかなたの場合には、ひとつのセットのたびに、RESETキーでHOLDから
 抜け出の方が、確実な操作となります。
- なお、キー操作の間隔は、3秒以内に行なってください。3秒を過ぎますと、「ピー」
 という動作音がすると同時に、HOLDセットから抜け出てしまいます。
- どれかのキーを押した後、3秒以内であれば、続けてセット、解除の操作ができますので
 なれば、すばやくセットできるようになります。

◎ 個別のスペシャル機能の動作状態

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{1} = \boxed{1 \ 1 \ - \ - \ -}$$

- モニターサーチのスピードを変えます。
セットした場合とセットしない場合の、モニターサーチを比べてみてください。
セットで 約、80CH/8秒 解除で 約、80CH/30秒 のスピードとなります。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{2} = \boxed{1 \ - \ 2 \ - \ -}$$

- モニターサーチのとき、1回してCHの最初になると、モードをひとつ進めます。
これにより、すべてのモードがつながり、1つのバンドのような状態になります。
モードは、0→1→2→3→4→5→6→7→0 の順に進んでいきます。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{3} = \boxed{1 \ - \ - \ 3 \ -}$$

- モニターサーチのとき、1バンドを 158CH とします。80CH の次は 81CH をサーチしていきます。(CHの並びかたは、別表を見てください。)

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{4} = \boxed{1 \ - \ - \ - \ 4}$$

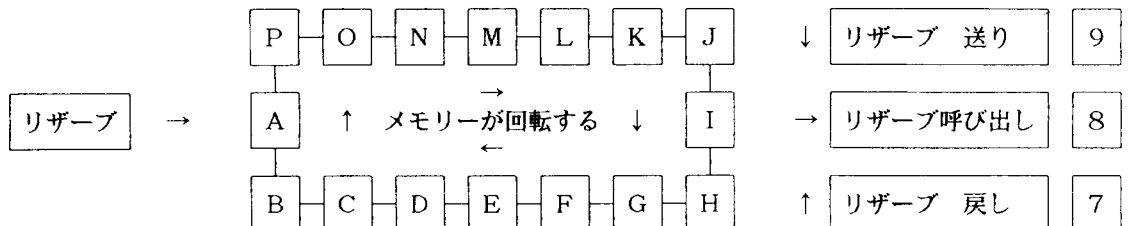
- 空きCHを探してサーチするようになります。CHが混んでいるときに操作すれば、良く分かります。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{2} + \boxed{1} = \boxed{2 \ 1 \ - \ - \ -}$$

- SFXは、全部で7つのモード(バンド)が使用できます。しかし、全部の制御CHを同時に受信することはできません。制御CHを高速に切り替えることで、全モードの待ち受けをします。
このため、全モード待ち受けの局にリコールをかける場合は、連続でリコールをしてください。
- セットしたまま、呼び出しを行ないますと、どのモードに設定されるかは、決定しません。
呼び出した後、モードを戻してリコールの作業が必要になります。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{2} + \boxed{2} = \boxed{2 \ - \ 2 \ - \ -}$$

- SFXは、通常のメモリーのほかに、16局分の リザーブメモリーをもっています。
リザーブメモリーは、普通のメモリーのように、指定してセット、呼び出しはできませんが、CH 群番号 モード までをメモリーできる機能を持っています。
2+2は、リコールや、呼び出しを行なっている信号を、すべてリザーブに記憶する機能です。
これにより、通りすぎてしまった信号のCHをモニターすることが可能となります。
(リザーブは16個までですので、17回前の信号は、呼び出せません。また、すべてのリザーブが、かわります。御注意ください。)
セットして、待ち受け状態にし、適当な信号を受信します。
リザーブに適当に溜まったら、7 のキーを押してみてください。いままで溜まった群番号が表示されます。行き過ぎたら 9 のキーで戻しもできます。希望する群番号の所で 8 のキーを押しますと、そのCHに移ります。

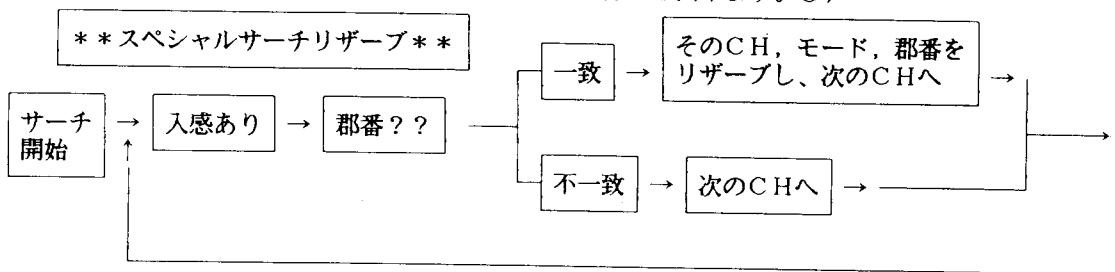


HOLD + 2 + 3 = 2 - - 3 -

- スペシャルサーチの設定をします。2+3 の設定だけですと、群番号が一致した場合、そのCHでストップします。ATIS信号を受信するまで、待ちますが、30秒たちますとサーチに移ります。メモリー1~8の8局待ち受けもできますが、一致した群番号の記憶されていたメモリーNo. になりますので、待ち受け数が変わってしまいます。再度、サーチする場合には、メモリーNo. を戻してください。

HOLD + 2 + 4 = 2 - - 3 4

- 上記の 2+3 をセットしているとき、セットしますと、リザーブ機能が動作します。群番号が一致しますと、その 群番号 CH モード を リザーブして、サーチを続けます。リザーブは、16局までです。一通りリザーブされた後で、7 8 9 のキーで、CHをモニターできます。メモリー1~8の 8局待ち受けの機能も同時に動作しています。この場合は、メモリーNo. が変わりませんので、そのままの待ち受け数でサーチを継続してゆきます。
(◎ 留守中に グループ探しも出来ます。◎)



HOLD + 3 + 1 = 3 1 - - -

- PTTを離れたときに自動でリコールを送信する機能です。PTTを離すたびにリコールしますので、CHをオープンして、CHチェックをかけているときにリコールもしますので便利です。

HOLD + 3 + 2 = 3 - 2 - -

- メモリーしている複数の群番号を一度にリコールする機能です。呼び出すCHは同じ場所となります。メモリーのNo. により、呼び出す数が変わります。(待ち受けと同様です)
- | | | |
|------------------|---|-------------------------|
| メモリー1 - 1の群番号だけ | } | 一度にその数だけの群番号でリコールを送信する。 |
| メモリー2 - 1から2の群番号 | | |
| ⋮ | | |
| メモリー8 - 1から8の群番号 | | |

HOLD + 3 + 3 = 3 - - 3 -

HOLD + 3 + 4 = 3 - - - 4

両方セット 3 - - 3 4

- 受信中に、内臓のタイマーで、リコールをかける機能です。
3+3だけで30秒ごとにリコールします。
3+4だけで 1分ごとにリコールします。
両方ともセットしますと、10秒ごとにリコールします。
モニターのモードでもリコールしますので、通話の状態に移ってからセットした方が良いでしょう。
- CH固定で、10秒リコールをかけておきますと、事実上のCH独占状態となります。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{4} + \boxed{3} = \boxed{4 \text{ --- } 3 \text{ ---}}$$

- 呼び出し信号の中にある、オプションコードの内容を、一分通話モードにします。80CHモードの無線機を呼び出す場合にはセットしても関係ありません。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{4} + \boxed{4} = \boxed{4 \text{ --- --- } 4}$$

- 呼び出し信号の中にある、オプションコードの内容を、小ゾーンモードにします。80CHモードの無線機は、呼び出せなくなります。注意してください。

-
- ◎ HOLD+1回のキー操作によるセット、解除、確認を行なう機能
1回でセット、解除できる機能を、以下に記します。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{5} = \boxed{\text{--- } 5 \text{ ---}}$$

- PTTを握ったとき 離れたとき 1分に1回 送信されるATIS信号を止めてしまう機能です。セットされていても、リコールのときは、送信されますので、呼び出しはできます。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{6} = \boxed{\text{--- --- } 6 \text{ ---}}$$

- 群番号の解読機能をセットします。SFXでは、群番解読をON/OFFできるようになりました。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{7} = \boxed{\text{--- --- --- } 7 \text{ ---}}$$

- 640RSでは、呼び出しを受けると、リセットしないかぎりそのCHにいましたが、SFXでは、タイマーとリザーブを組み合わせて、一層便利にしています。HOLD+7をセットしますと、640RSと同様にRESETキーを押さないかぎり、そのCHに固定される機能になりますが、セットしていなければ、タイマーが動作します。
- タイマー動作している場合、呼び出しを受け付けますと、30秒間受信しています。このとき、表示が点滅しています。このときに、HOLD か REMOTE か PTT を押すと、そのCHにLOCKされます。また、LOCKをかけませんと、30秒後にリセットします。しかし、そのときのCH モード 群番号が、リザーブされます。
- 留守中に、どの群番号で、どのモードに、どのCHに呼び出されたのか、帰宅後でも、リザーブの内容を確認できます。また、呼び出した人が、まだ、交信中であれば、すぐに加わることが出来ます。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{8} = \boxed{\text{--- --- --- --- } 8}$$

- 制御CHに妨害を与える機能です。一般の制御CHでの無変調とちがい、信号の上だけに混信を与えますので、リコールが打てなくなりはしません。信号を受信している側への妨害機能です。動作させていただきますと、良く分かると思います。混んでいる場所では、「ピッ」という音が繁雑になります。そのたびに、短い無変調を送信しています。なお、リセットの状態だけで機能が動作します。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{9} = \text{動作音を大きくします。}$$

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{0} = \text{動作音を 小さく または 消します。}$$

— 640RSと同様です。

HOLD + C = 群番号表示 + 「ピーッ ピーッ」の動作音

- 切断信号を送信します。いわゆる「強制リセット」です。この機能は、新モードの機種だけが受付られるようになっていまして、80CHモード機は、リセットさせられません。これは、個々の機械の設計段階で内蔵されている機能ですので、80CH機は外部からどのような信号を入れてもリセットさせることはできません。誤解のないようご注意ください。
- また、新モードの機種でも、いたずらによるリセットを防ぐため、特殊な形で暗証番号を設定しています。SFXでは、すべての暗証番号を送信しますので、かなりの時間、信号を送信しなければなりません。

HOLD + M = 群番号表示

- 最近では、免許番号の解読機が、ショップ等で販売されていますが、そのような物に対抗して、相手の免許番号を使用してしまう機能です。解読はできませんので、表示させたい場合、解読機等のオプションを購入してください。
- 取り込みたい局のATIS信号を受信した直後に操作してください。以降は、再度取り込むか、ノーマルに戻るまでは、その免許番号を使用できます。

！絶対に悪用はしないでください！

HOLD + HOLD = 相手の群番号

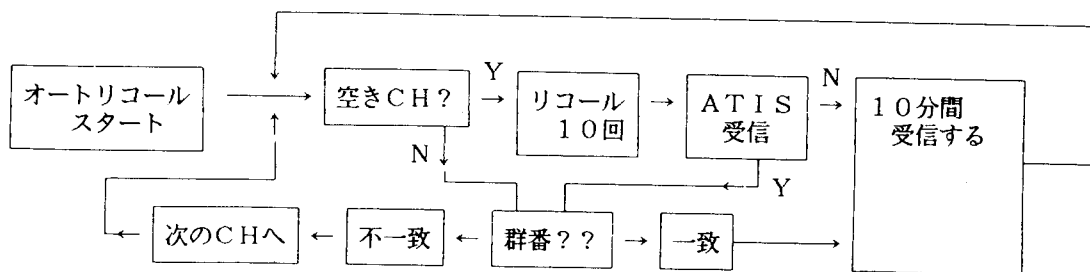
- 相手の群番号を、そのまま自分のメモリーに、写しとってしまう機能です。そのとき使用しているメモリーに取り込みますので、以前に記憶されていた群番号は消えてしまいます。消してもよい群番号が入っているメモリーに切り替えてから、操作してください。メモリーに取り込みますので、あとは自由に使用できます。

HOLD + MON = CH表示 → 群番号表示

- SFXでは、留守中にも無線機がなにかの動作をできる機能を多く取り入れています。この機能は、オートリコールステーションと呼びます。以下に書いた機能をリセットをかけるまでいつまでも続けます。メンバーのなかのひとりがセットしておきますと、便利です。

1. 自動的にあきCHを探します。
2. リコールを打ちます。
3. 使用しはじめたグループの群番号を確認します。
4. 仲間のグループが使用している間は、作業を中止してそのCHを受信します。
5. グループがいなくなると、また、作業を再開します。

****オート リコール ステーション****



HOLD + **CQ** = **— — 0 0 0** + 「ピ ピ ピ」の動作音と表示が激しく点滅

- 新モードにあらたに加えられた群番号の、緊急コードのセットと呼び出しを行ないます。
新モードの機種は、(ノーマル機) 緊急コードの待ち受けを外すことができなくなっています。
したがって、待機中の機械はすべて呼び出せます。
- 事故、災害などの非常事態のときに操作してください。なお、このままりコールもできますので、
万一のときには、万全です。！ いたずらに送信しないでください。緊急の意味がなくなります。！

HOLD + **REMOTE** = **メモリー1の群番号**

- SFXを完全ノーマル機にする機能です。
安心LOCKが かかっていますので、スペシャルに戻るには、暗証番号が必要です。
- 電源を切らずにそのまま使用しますと、ATISカートリッジ無しのまま、送信が可能です。
なお、このような状態が 4通りあります。(1ページを参照ください。)

 1. ノーマル 送信できる。——→ スペシャルで電源を入れ、ノーマルに切り替える。
 2. ノーマル 送信できない。——→ ノーマルのまま、電源を入れる。
 3. スペシャル 送信できる。——→ スペシャルのまま、電源を入れる。
 4. スペシャル 送信できない。——→ ノーマルで電源を入れ、スペシャルに切り替える。

- スペシャル状態で、電源を切る場合、メモリー0に暗証番号を記憶させておきますと、次に電源を
いれた際に、スペシャル状態から起動させられます。
- SFXでは、メモリー0を、リザーブなどの機能で使用していますので、内容が変わっている場合が
あります。そのときに電源を切り、再度 電源を入れますと、当然 暗証番号が違いますので、
ノーマルからのスタートとなってしまいます。御注意ください。(1ページを参照ください。)

HOLD + **1~4のキー** + **RESET** = **群番号表示に戻る**
 または + **END** = **群番号表示に戻る**

- HOLD キー を押したあと、RESET または END のキーで HOLD の操作を中断
することができます。SFXでは、HOLD の表示が 2段階に別れていますので、設定の
確認の際に使用すると、素早く操作できます。
- 不慣れな方の場合、2回、3回のキー操作が有りますので、設定が終了するたびに、
念のために押すとよいでしょう。

- ◎ SFXでは、群番号の設定の際、0～9 以外の特殊な数をセットすることができます。

これは、各社のパーソナル無線機が、すべて マイクロコンピューター により、コントロールされているためです。

コンピューターは、一般的に、16進法 という数字を使用しています。

16進法 とは、ひとつの数字で、[0] から [15] までを表現できる表示方法です。

[1] から、[9] までは、普通の数字と同じですが、[A] などは、ひとつの文字で、[10] を表わします。

同様に、[B] = 11, [C] = 12, [D] = 13, [E] = 14, [F] = 15 を表わします。

(実際には表示しません)

$$\boxed{C} + \boxed{C} + \boxed{C} + \boxed{C} + \boxed{C} + \boxed{C} = \boxed{A A A A A}$$

- C (クリア) に続く C のキーは、[A] となります。

(実際には表示しません)

$$\boxed{C} + \boxed{M} + \boxed{M} + \boxed{M} + \boxed{M} + \boxed{M} = \boxed{B B B B B}$$

- C (クリア) に続く M のキーは、[B] となります。

(実際には表示しません)

$$\boxed{C} + \boxed{HOLD} + \dots + \boxed{HOLD} = \boxed{C C C C C}$$

- C (クリア) に続く HOLD のキーは、[C] となります。

(実際には表示しません)

$$\boxed{C} + \boxed{CQ} + \boxed{CQ} + \dots + \boxed{CQ} = \boxed{E E E E E}$$

- C (クリア) に続く CQ のキーは、[E] となります。

(実際には表示しません)

$$\boxed{C} + \boxed{REM} + \dots + \boxed{REM} = \boxed{F F F F F}$$

- C (クリア) に続く REMOTE のキーは、[F] となります。

- ◎ 特殊文字群番号のため、群番号の組み合わせが、10万通りから 70万通りに増えます。

なお、新モードでは、先頭に [F] のつく、各種専用コードが設定されました。

SFXでは、緊急コード以外は、御自分で設定することになりますので、次頁の、特殊群番号の例を参照ください。入力方法が記入されています。

(専用コードの待ち受けも、メモリー1～8に設定して御使用ください。)

- ◎ 入力を間違えてしまった場合、RESET キーで、操作を中断できます。この場合に、群番号は変更されません。

- ◎ なお、[A]～[F]の群番号は、表示できませんので、入力の際には十分注意して操作をおこなってください。まちがえてセットしても、分からなくなってしまう。
(キーの数の関係上、[D]の入力は行なえません。)

- ◎ [A]～[F]の表示をできるようにするには、特殊な改造が必要です。購入されました販売店に、御相談ください。

○ 新モードに、あらたに加えられた、特定群番号の設定方法

ここでは、例として、メモリー1 に設定する場合を記します。

例 1 — 緊急通信用 群番号の セット (FF000)
(HOLD+CQ でも、セットできます。)

$\boxed{M} + \boxed{1} + \boxed{C} + \boxed{REM} + \boxed{REM} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{0}$

例 2 — 交通情報用 群番号の セット (F0000)

$\boxed{M} + \boxed{1} + \boxed{C} + \boxed{REM} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{0}$

例 3 — 高速道路通信用 群番号の セット (F0003)

$\boxed{M} + \boxed{1} + \boxed{C} + \boxed{REM} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{3}$

例 4 — 近接車通信用 群番号の セット (F0005)

$\boxed{M} + \boxed{1} + \boxed{C} + \boxed{REM} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{5}$

例 5 — Aコード 群番号の セット (F0006)

$\boxed{M} + \boxed{1} + \boxed{C} + \boxed{REM} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{6}$

例 6 — Bコード 群番号の セット (F0009)

$\boxed{M} + \boxed{1} + \boxed{C} + \boxed{REM} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{9}$

○ 群番号の入力中、数字キー以外のキーが、特殊数字のキーにかかります。

[C] のキーでは、途中で打ち直してできません。[RESET] キーで、最初から設定し直してください。

その他、A, B, C, E, F, の 特殊数字のキーは、下のようになります。

$\boxed{C} = [A] \quad \boxed{M} = [B] \quad \boxed{HOLD} = [C] \quad \boxed{CQ} = [E] \quad \boxed{REM} = [F]$

○ 数字キーについて

数字キーは、今まではCHや、群番号の設定時にしか使用しませんでした。

この場合は、[M]や[C]のキーにつづいて操作することにより、これらの設定ができますが、それ以外の場合は、何の機能もありませんでしたが、SFXでは、最初に数字キーを押す場合、以下の機能を持たせています。

- [1]～[6]のキーには、CHおよびモードを動かす機能があります。
- [7]～[0]のキーには、リザーブに関する機能があります。

キーパネルの各機能		
現在のCHより -1CHダウン 1	現在のモードより +1モードアップ 2	現在のCHより +1CHアップ 3
現在のCHより ハーフCHダウン 4	現在のモードより -1モードダウン 5	現在のCHより ハーフCHアップ 6
リザーブを ひとつ戻す 7	リザーブを 呼び出す 8	リザーブを ひとつ送る 9
リザーブに 記憶させる 0	C	M

- 640RSでは、CHの アップ、ダウン に、マイクのキーを使用していましたが、SFXでは、数字キーにより アップ、ダウン を行ないます。
また、ハーフCH づつの アップ、ダウン も可能になりました。

こんな使いかた

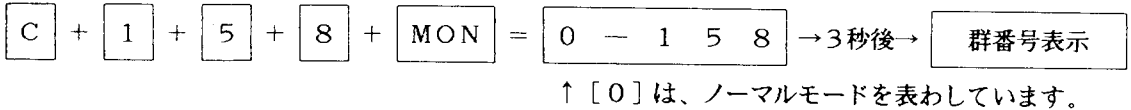
CHが、ハーフづつ移動できることを利用して、別の無線機が、周波数がずれていた場合、基準となる周波数より、高いのか、低いのか、簡単なチェックができます。

ただし、SFXの周波数を きちんと合わせておきましょう。
購入されました販売店で、定期的にチェックされると、よいでしょう。

◎ CHについて

- キー操作によるCH設定の場合は、00CH～158CH まで、可能です。
(モニタースキャンの場合は、02CH～158CHまでです。)
ただし、制御CH (01CH) の送信はできません。それ以外はすべて送信可能です。
- キー操作により、CH設定できます。

例1, 158CHに設定します。



例2, 80CHに設定します。



(2ケタの場合は、入力も2ケタで設定できます。)

- モードの切り替えは、[2]のキー、[5]のキーで瞬時に切り替えられます。
- 直接入力される数字キーによる、CHの操作について。

SFXでは、最初に入力される数字キーに、CH、モードをアップダウンさせる機能を持っています。
どのキーが、どの動作をするかは、前頁の「キーパネルの各機能」を参照ください。

◎リセット状態からは、前回使用したCHに、押したキーの条件が加わってモニターします。

◎モニター状態からは、キーの操作どおりにCHが変わります。

◎通話状態からは、モニター状態にうつり、キーの操作どおりにCHが変わります。

◎送信中は、キーを押した瞬間に、ATIS信号を送信し、そのCHに移動します。
(実質上、送信したまま、CHを移動できるので、通話しながら、あっちこっちと動き回れる)

キー操作を行なったあと、3秒間、CH表示をします。左の数字は現在のモードを示しています。
CHを確認したい場合は、CQキーを押してください。3秒間表示します。

モード0	— ノーマルモード	903～905MHz	— ノーマル
" 1	— ダウンモード	901～903MHz	} 現在、割り当て無し
" 2	— ダブルダウンモード	899～901MHz	
" 3	— トリプルダウンモード	897～899MHz	
" 4	— プライベートモード	895～897MHz	
" 5	— アップモード	905～907MHz	} 業務無線が使用中
" 6	— ダブルアップモード	907～909MHz	
" 7	— トリプルアップモード	909～911MHz	

- 80CH また、158CHから、ステップで CHアップした場合、モードは変わりません。
モニターサーチの 全バンド が設定されていても、変わりません。御注意ください。
- 80CHから、1CHアップしますと、81CH (02CHと03CHのあいだ) になります。
- 80CHから、ハーフCHアップしますと、02CHになります。
- 158CHから、1CHアップしますと、00CHになります。

- ◎ リザーブメモリーについて
 - リザーブメモリーとは、一種のウラメモリーです。SFXでは、CH数が、1280にも増え、すべてのCHを十分有効に使用するのには困難なほどになりました。また、多くの方から、『留守中に、どの群番で、どのCHへ、何回呼び出しを受けたか、分かるようにできないか。?』という御意見もあり、新機能として加えさせていただきました。
 - リザーブできる数は、16ヶまでです。17ヶ目をいれますと、最初の1ヶが消されてしまいます。
 - 群番号、CH、モードまでを、ワンタッチで記憶できてしまう便利な機能です。また、あらかじめセットしておき、CHからCHへ、瞬時のQSY（CH移動）に、また、多数のグループとの掛け持ちQSOも、らくらくOKです。
 - SFXの、リザーブメモリーは、その使用方法が大きく3通りに別れます。
 1. 全群番号リザーブのような、あそび的な使用方法。
 2. スペシャルサーチリザーブや、呼び出しタイマーリザーブのような、留守番機能。
 3. 自分で、CH、モード、群番号を記憶させて使う、CHメモリー。
1. 2. の説明は、HOLDの機能で書かれていますので、そちらを参照ください。
ここでは、3. の、リザーブを自分で設定する方法について説明します。

- 手動でリザーブする。
リザーブメモリーは、色々な機能で使用されています。ですから自分が記憶させた内容が変わってしまわないよう、以下のスペシャルは設定しなおす必要があります。

全群番号リザーブ	→ HOLD+2+2	}	スペシャルの設定を解除する。
スペシャルサーチリザーブ	→ HOLD+2+4		
タイマーカット	→ HOLD+7	——	スペシャルの設定を行なう。

以上の設定を行なっておきませんと、自動機能が動作して、せっかくリザーブした内容が書き変わってしまう場合があります。

- リザーブメモリーは、自動、手動にかかわらず、記憶した場合に、つぎの記憶に備えて、記憶するメモリーを、自分でひとつ進めておきます。このため、連続して記憶させたい場合でも、そのままつづけてキー操作ができます。
 - リザーブメモリーに記憶させる
リザーブメモリーは、[0]のキーを押すことにより、通話状態のCH、モード、群番号を記憶することができます。
そこで、以下の操作により、自分の希望するメモリーができます。
 1. 記憶させたい群番号に打ちかえる。 (使用しているメモリーはなんでもよい)
 2. 記憶させたいCHをモニターする。 (CH固定 又は、アップ、ダウンの操作)
 3. 記憶させたいモードにする。 ([2], [5]のキー操作)
 4. [0]のキーを押す。 (記憶させるたびに、リザーブ場所は自動で進みます。)
 5. 別のCHを記憶させたいなら、1. から操作する。全部で16局まで。
 1. 2. 3. の順序は入れ代わってもOKです。
- 最終的には 『今、無線機がなっている状態』 を [0]のキーを押すと、リザーブするわけです。

このように操作すれば、16局分の、群番号、CH、モードまでをリザーブに記憶できます。

◎ リザーブメモリーについて その2

○ 記憶させる順序を下記に例として示します。

例 12345の群番号, モード2, 67CH を記憶させる

$$\boxed{C} + \boxed{1} + \boxed{2} + \boxed{3} + \boxed{4} + \boxed{5} = \boxed{1\ 2\ 3\ 4\ 5} \quad \text{群番号をきめる}$$

$$\boxed{2} = \boxed{1\ -\ -\ ?\ ?} \quad \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \text{モードを合わせる}$$

$$\boxed{2} = \boxed{2\ -\ -\ ?\ ?}$$

$$\boxed{C} + \boxed{6} + \boxed{7} + \boxed{MON} = \boxed{2\ -\ -\ 6\ 7} \quad \text{CHをきめる}$$

$$\boxed{0} = \boxed{2\ -\ -\ 6\ 7} \quad \text{リザーブに記憶させる}$$

※ この場合、モードを先に合わせていますが、この方法でもかまいません。

○ 適当なCHをモニターする。

例 56789の群番号, モード4, 158CHとする。

$$\boxed{C} + \boxed{5} + \boxed{6} + \boxed{7} + \boxed{8} + \boxed{9} = \boxed{5\ 6\ 7\ 8\ 9} \quad \text{群番号をきめる}$$

$$\boxed{2} = \boxed{3\ -\ -\ 6\ 7} \quad \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \text{モードを合わせる}$$

$$\boxed{2} = \boxed{4\ -\ -\ 6\ 7}$$

$$\boxed{C} + \boxed{1} + \boxed{5} + \boxed{8} + \boxed{MON} = \boxed{4\ -\ 1\ 5\ 8} \quad \text{CHをきめる}$$

群番号, CH, モードが まったく変わっていてもOKです。

○ リザーブを呼び出す

$$\boxed{7} = \boxed{1\ 2\ 3\ 4\ 5} \quad \text{リザーブされていた群番号を表示します。}$$

$$\boxed{8} = \boxed{2\ -\ -\ 6\ 7} \quad \text{[8]を押すことにより、そのCHに移動します。}$$

○ リザーブ呼び出しの使用メモリー

このとき、[M]のキーを押してみてください。

$$\boxed{M} = \boxed{0\ -\ -\ -\ -}$$

このように表示します。

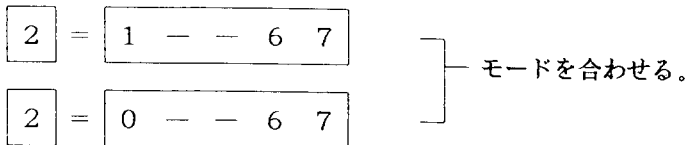
リザーブは、『記憶』のときは、使用中のメモリーから(0~9までなんでもよい)取り込みます。
『呼び出し』のときは、メモリー[0]に再現します。ですから、電源を切る際、ノーマル
になってしまいます。詳細は、1頁を御覧ください。

○ 以上のような要領で、希望するメモリーを設定、呼び出しします。

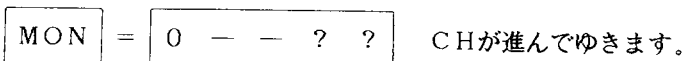
◎ リザーブメモリーについて その3

- モニターサーチしながら、探っておきたいグループのみ、リザーブする例を示します。
- 8面待ち受けで自動的に動作させる場合、5頁の、スペシャルサーチリザーブを、参照ください。以下では、手動により、リザーブする例を述べています。

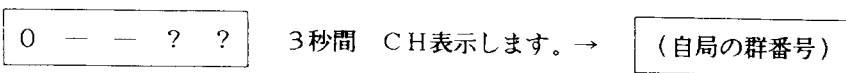
1. 一般的に、CHの使用率が高いので、ノーマルモードで行なう例を示します。



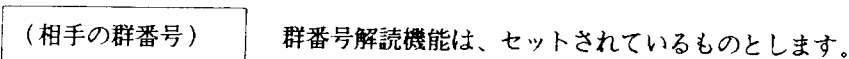
2. モニターサーチする。



3. 受信して止まる。

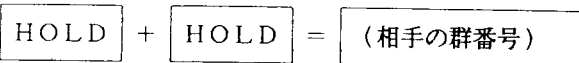


4. ATIS信号を受信する。

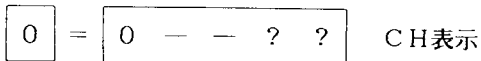


リザーブしたくないなら、(7.)の操作へ

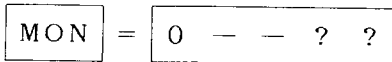
5. 相手の群番号を吸い取る。



6. リザーブする。



7. ふたたび、モニターサーチする。



8. (3.)の操作から繰り返し16局までリザーブできます。

- 群番号吸い取り機能を利用していますので、いちいち、群番号を打ち替えずに済んでしまいます。
- スペシャルサーチの場合と違い、自分の好きな群番号、CHのところを、リザーブできます。
- ひと通りリザーブしておけば、後はそのグループの掛け持ちQSOも、ワンタッチで行なえます。

◎ リザーブメモリーについて その4

- リザーブされたものを、呼び出し、利用します。

リザーブ情報は、群番号，CH，モード の3種類ですが、一度にすべてを表示する事はできません。

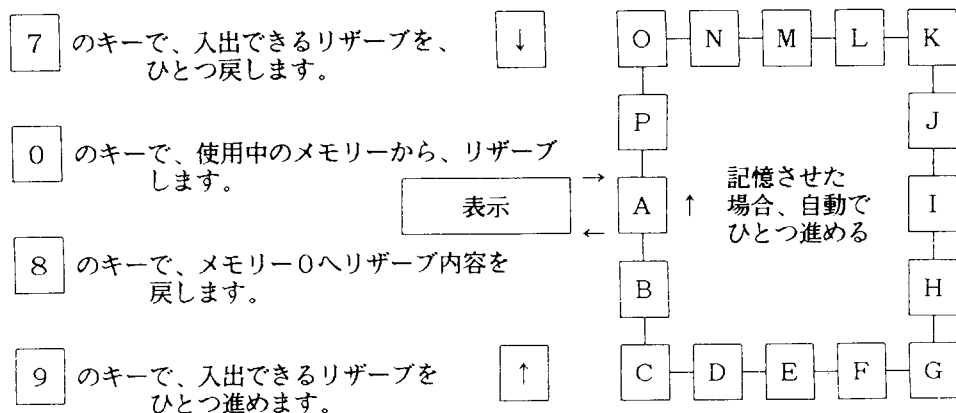
リザーブされた中から、必要なものを取り出す場合、群番号が表示されますので、これを頼りにリザーブ内容呼び出します。

リザーブを呼び出す例

1. または のキーを何回か → つぎつぎと、リザーブされていた群番号が表示される。
2. を表示させる
3. = モードとCHを表示し、そのCHをモニターする。
4. 3秒後、群番号表示に戻ると、その群番号になっている。以降は、自局の群番号となる。

- リザーブの状態を、下図に示します。

リザーブメモリーは、ループになっています。



および のキーを操作した場合、4秒以内に次のキーが押されなければ、自動的に、リザーブ内容を取り出し、そのCHに移ります

- リザーブを取り出す場合は、メモリー0を使用しています。自動でメモリーが切替わりますので、メモリーを切り替える操作は、必要ありません。安心LOCKを使用するときには、メモリー0に関係がありますので、注意してください。
- 留守番機能で、リザーブされている内容も、おなじ操作で呼び出すことができます。

リセット状態で、呼ばれたCHを留守番 — HOLD+7 の機能を参照ください。

モニターサーチで、自分からCHを探し、ためる — HOLD+2+2, HLOD+2+3 の機能を参照ください。

◎ スペシャル機能の組み合わせ、変わった使いかた

○ モニターサーチを高速で、ハーフまでを含む全CH、全モードで行なう。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{1} + \boxed{2} + \boxed{3} = \boxed{1\ 1\ 2\ 3\ -}$$

○ タイマーリコールで、30秒ごとに、8面の群番号で行なう。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{3} + \boxed{2} + \boxed{3} = \boxed{3\ -\ 2\ 3\ -}$$

$$\boxed{\text{M}} + \boxed{8} = \boxed{\text{メモリー8の群番号}}$$

○ 8面スペシャルサーチで、80CHまでで、全モードで、群番号が一致したら、そのCHで8面のタイマーリコールを打つ。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{1} + \boxed{2} = \boxed{1\ 1\ 2\ -\ -} \rightarrow \boxed{\text{(群番号表示)}}$$

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{2} + \boxed{3} = \boxed{2\ -\ -\ 3\ -} \rightarrow \boxed{\text{(群番号表示)}}$$

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{3} + \boxed{2} + \boxed{4} = \boxed{3\ -\ 2\ -\ 4} \rightarrow \boxed{\text{(群番号表示)}}$$

$$\boxed{\text{M}} + \boxed{8} = \boxed{\text{メモリー8の群番号}}$$

$$\boxed{\text{MON}} = \boxed{? \ -\ -\ ?\ ?} \quad \text{モニターサーチ}$$

○ スペシャルサーチリザーブで、ハーフを含む、全CH、全モードの中から、8面の局を捜しだしてリザーブする。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{1} + \boxed{1} + \boxed{2} + \boxed{3} = \boxed{1\ 1\ 2\ 3\ -} \rightarrow \boxed{\text{(群番号表示)}}$$

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{2} + \boxed{3} + \boxed{4} = \boxed{2\ -\ -\ 3\ 4} \rightarrow \boxed{\text{(群番号表示)}}$$

$$\boxed{\text{M}} + \boxed{8} = \boxed{\text{メモリー8の群番号}}$$

$$\boxed{\text{MON}} = \boxed{? \ -\ -\ ?\ ?} \quad \text{モニターサーチ}$$

○ 流れる群番号

8面リコールを利用して、あらかじめメモリーに、それぞれの群番号を記憶させておく。

右のように群番号をメモリーしておき、
8面リコールをかけると、群番号が
流れるように見える。

$$\boxed{00001} \rightarrow \boxed{00128} \rightarrow \boxed{12800} \rightarrow \boxed{80000}$$

メモリー1=00001
" 2=00012
" 3=00128
" 4=01280
" 5=12800
" 6=28000
" 7=80000
メモリー8=00000

スペシャル機でリセット待機しているひとはビックリ?!

◎ どうすれば??

モニタースキャンを速くする方法	-----	4ページ
8つのモードを全部スキャンする方法	-----	4ページ
新モード158CHでスキャンする方法	-----	4ページ
あいているCHを探す方法	-----	4ページ
8つのモードを全部 待ち受けする方法	-----	4ページ
リセット中に、通りすぎた群番を戻す方法	-----	4ページ
個々の群番を探す方法	-----	5ページ
個々の群番を探して貯金する方法	-----	5ページ
自動でリコールを打つ方法	その1 PTT -----	5ページ
	その2 多群 -----	5ページ
	その3 タイマー ---	5ページ
	その4 タイマー ---	5ページ
	その5 タイマー ---	5ページ
CHをグループで独占する方法	-----	5ページ
新モードで呼ぶ方法	その1 小ゾーン ---	6ページ
	その2 1分通話 ---	6ページ
群番を読み取らせない方法	その1 カット -----	6ページ
	その他大勢 -----	9ページ
群番を解説する方法	-----	6ページ
タイマーカット	-----	6ページ
CHを静かにさせる方法	-----	6ページ
緊急事態のとき	-----	8ページ
自動で仲間を集めておきたいとき	-----	7ページ
他人になりすます方法	-----	7ページ
相手を落としたいとき	-----	7ページ
電監の取り締まりに会ったとき	-----	8ページ

スーパーウェポン 1280 SFX

* モニタースキャンに関する操作 *

- HOLD** + **1** + **1** = ON→スピード高速 OFF→スピード低速
- HOLD** + **1** + **2** = ON→全モードスキャン OFF→単一モードスキャン
- HOLD** + **1** + **3** = ON→158CHまでスキャン OFF→80CHまでスキャン
- HOLD** + **1** + **4** = ON→空きCHサーチ OFF→普通のサーチ

* 待ち受け、リザーブ機能に関する操作 *

- HOLD** + **2** + **1** = ON→全モード待ち受け OFF→単一モード待ち受け
- HOLD** + **2** + **2** = ON→全郡番をリザーブする OFF→全郡番リザーブはしない
- HOLD** + **2** + **3** = ON→スペシャルサーチ OFF→普通のサーチ
- HOLD** + **2** + **4** = ON→スペシャルサーチリザーブ OFF→リザーブはしない

* 自動リコールに関する操作 *

- HOLD** + **3** + **1** = ON→PTTを離すとリコール OFF→PTTでリコールしない
- HOLD** + **3** + **2** = ON→多数の郡番リコール OFF→ひとつの郡番リコール
- HOLD** + **3** + **3** = 30秒に一回のリコール
- HOLD** + **3** + **4** = 一分に一回のリコール
- } 両方で、10秒に一回のリコール
- HOLD** + **4** + **3** = ON→呼び出す相手を一分通話とする (新モードのみ)
- HOLD** + **4** + **4** = ON→呼び出す相手を小ゾーンとする (新モードのみ)
- HOLD** + **5** = ON→ATIS信号カット OFF→ATIS信号送信
- HOLD** + **6** = ON→郡番号解読する OFF→郡番号解読しない
- HOLD** + **7** = ON→タイマーカット OFF→タイマー1分+リザーブ
- HOLD** + **8** = ON→制御信号妨害をする OFF→制御信号妨害しない

* その他、HOLDの特殊機能

HOLD + **C** = 切断信号送信

HOLD + **M** = 免許番号吸い取り

HOLD + **HOLD** = 群番号吸い取り

HOLD + **MON** = オートリコールステーション

HOLD + **CQ** = 緊急コード自動呼び出し

HOLD + **REMOTE** = 完全ノーマル 安心ロック

